

平成27年度事業報告書

〔 平成27年4月1日から
平成28年3月31日まで 〕

公益財団法人 神奈川県下水道公社

平成 27 年度 事業報告書

1 概要

当社は、下水道公社定款に基づき、流域下水道及び流域関連公共下水道の維持管理に関する業務のほか、下水道知識の普及・啓発活動及び下水道技術に関する調査研究を行い、県及び市町の下水道事業に協力し、もって県民の健康で快適な生活環境の向上と公共用水域の水質保全に寄与し、公衆衛生の向上及び環境保全を目的として事業を行いました。

事業の実施にあたっては、「公益財団法人神奈川県下水道公社第 5 期経営改善計画」に基づき、効率的な運営に努めると共に、より一層の経費の削減に取り組みました。

2 受託事業

神奈川県が設置する流域下水道の処理施設の運転操作等維持管理業務及び流域関連公共下水道の水質分析等技術的業務を受託し、創意と工夫をもって主体的に業務に取り組み、県民の健康で快適な生活環境の向上と公共用水域の水質保全に寄与するため、次の事業を行いました。

(1) 流域下水道の下水処理等維持管理事業

神奈川県から相模川及び酒匂川流域下水道の下水処理等維持管理業務を受託し、流域関連市町からの流入下水を適正に処理し、下水処理場施設、幹線管渠及び関連するポンプ場など、処理場施設の維持管理を行うほか、県民に下水道の役割などを理解していただくための広報活動などを行いました。

ア 主な維持管理施設等の概要

平成 27 年度に県から受託した主な下水道維持管理施設は、次表のとおりです。

(平成 28 年 3 月 31 日現在)

処理場 施設・設備	相模川流域下水道		酒匂川流域下水道	
	四之宮	柳 島	酒 匂	扇 町
敷地面積 (ha)	26.9	19.6	9.8	7.0
水処理施設 (系列数)	6 系列	9 系列	3 系列	2 系列
施設能力 (m ³ /日最大)	322,800	539,100	108,000	56,480

処理場 施設・設備	相模川流域下水道		酒匂川流域下水道	
	四之宮	柳 島	酒 匂	扇 町
汚泥脱水設備	ベルト 4 台 遠心 2 台 スクリュウ1 台	遠心 3 台 ロータリー1 台 スクリュウ3 台	スクリュウ4 台	ベルト 2 台 スクリュウ1 台
汚泥焼却設備 (日最大能力 計)	3 基 (320 t/日)	4 基 (660 t/日)	1 基 (60 t/日)	2 基 (60 t/日)
管渠 (流域幹線)	37,960m	89,470m	26,920m	19,340m
ポンプ場	2 箇所	6 箇所	1 箇所	—
上部利用施設	四之宮ふれあい 広場 5.25 ha	柳島しおさい 広場 7.0 ha	酒匂きらり 広場 1.3 ha	扇町しらさぎ 広場 1.2 ha

(注) 汚泥脱水設備の「ベルト」はベルトプレス、「スクリュウ」はスクリュウプレス、「ロータリー」はロータリープレスを表す。

イ 下水処理

(ア) 流入下水道

平成 27 年度の相模川及び酒匂川流域下水道の流入下水道量は、次表のとおりです。

流 域	下水処理場 (管理センター)	流入下水道量 (m ³)		増減 (前年比%)
		平成 27 年度 実績	平成 26 年度 実績	
相模川	四之宮	86,585,050 (236,570)	85,850,000 (235,210)	735,050 (100.9%)
	柳 島	149,374,760 (408,130)	148,956,720 (408,100)	418,040 (100.3%)
	相模川計	235,959,810 (644,700)	234,806,720 (643,310)	1,153,090 (100.5%)
酒匂川	酒 匂	20,594,180 (56,270)	20,110,160 (55,100)	484,020 (102.4%)
	扇 町	15,869,730 (43,360)	15,488,760 (42,430)	380,970 (102.5%)
	酒匂川計	36,463,910 (99,630)	35,598,920 (97,530)	864,990 (102.4%)
合 計		272,423,720 (744,330)	270,405,640 (740,840)	2,018,080 (100.7%)

(注) 流入下水道量は年間の数量で、() 内の数字は日平均水量を示す。

(イ) 流入水及び放流水の水質測定結果

流入下水を処理するにあたっては、標準活性汚泥法により適切に処理し、全て法で定める排水基準値以内で処理することができました。

a 相模川流域下水道水質測定結果

主な項目		処理場		排水基準		
		四之宮		柳島		
		流入水	放流水	流入水	放流水	
BOD (mg/L)	平均	190	4.6	170	3.6	四之宮 20 (25) 柳島 (25)
	最大	210	7.6	190	5.6	
	最小	170	3.1	150	2.5	
COD (mg/L)	平均	94	9.4	100	9.4	四之宮 (25) 柳島 20 (25)
	最大	100	10	110	10	
	最小	83	8.8	89	8.6	
SS (mg/L)	平均	185	2.3	200	2.5	50 (70)
	最大	223	3.1	218	3.8	
	最小	159	1.6	182	1.3	
pH	平均	7.2	6.5	7.4	6.6	5.8~8.6
	最大	7.3	6.6	7.5	6.7	
	最小	7.0	6.4	7.2	6.6	
大腸菌群数 (個/cm ³)	平均	18万	52	26万	88	3,000
	最大	35万	90	39万	220	
	最小	9万	14	14万	34	

(注)・BOD は生物化学的酸素要求量、COD は化学的酸素要求量、SS は浮遊物質量、pH は水素イオン濃度（水素指数）を表す。

・排水基準は、水質汚濁防止法又は神奈川県生活環境の保全等に関する条例の基準値で、() は最大値を示す。

b 酒匂川流域下水道水質測定結果

主な項目		酒匂		扇町		排水基準
		流入水	放流水	流入水	放流水	
BOD (mg/L)	平均	160	2.4	120	2.7	20 (25)
	最大	240	3.4	140	3.5	
	最小	140	1.2	97	2.0	
COD (mg/L)	平均	90	8.3	80	10	(25)
	最大	110	9.6	89	11	
	最小	77	7.3	70	8.8	
SS (mg/L)	平均	168	1.0未満	157	2.9	50 (70)
	最大	272	2.1	172	4.3	
	最小	134	1.0未満	137	2.0	
pH	平均	7.4	6.6	7.4	6.9	5.8~8.6
	最大	7.6	6.6	7.5	6.9	
	最小	7.3	6.5	7.3	6.8	
大腸菌群数 (個/cm ³)	平均	11万	33	7.8万	83	3,000
	最大	20万	110	9.8万	140	
	最小	7.6万	5	5.4万	46	

(注) 相模川流域下水道の注記に同じ

ウ 汚泥処理

(ア) 汚泥等発生量

発生した汚泥等は、次表のとおりです。

流域	下水処理場 (管理センター)	汚泥等発生量 (t/年)		増減 (前年比%)
		平成 27 年度 実績	平成 26 年度 実績	
相模川	四之宮	54,509	53,701	808 (101.5%)
	柳 島	127,640	124,421	3,219 (102.6%)
	相模川計	182,149	178,122	4,027 (102.3%)
酒匂川	酒 匂	18,232	18,502	△270 (98.5%)
	扇 町	9,041	8,955	86 (101.0%)
	酒匂川計	27,273	27,457	△184 (99.3%)
合 計		209,422	205,579	3,843 (101.9%)

(イ) 焼却灰等処分量

焼却処理により発生した焼却灰等は、全量資源として有効利用しました。

流域	下水処理場 (管理センター)	焼却灰等処分量 (t/年)		増減 (前年比%)
		平成 27 年度 実績	平成 26 年度 実績	
相模川	四之宮	2,215	1,945	270 (113.9%)
	柳 島	4,002	5,146	△1,144 (77.8%)
	相模川計	6,217	7,091	△874 (87.7%)
酒匂川	酒 匂	656	534	122 (122.8%)
	扇 町	223	221	2 (100.9%)
	酒匂川計	879	755	124 (116.4%)
合 計		7,096 〔①3,400 ②2,788〕 〔③648 ④260〕	7,846 〔①3,627 ②3,379〕 〔③840 ④0〕	△750 (90.4%)

(注)・合計欄の () は合計数量の内訳で、①は乾灰、②は加湿灰、③は焼却沈砂、
④は脱水汚泥を表す。

・上記には、保管していた焼却灰を含む。

エ 放射能対策

放流水や焼却灰等（保管中の灰も含む）の放射能濃度や上部利用施設、処理場敷地境界線等での放射線量の測定を実施し、状況の把握に努めるとともに適正な管理を行いました。

また、保管していた焼却灰等は全量処分が完了（平成 27 年 12 月）しました。

オ 機器設備等の管理

処理場に設置されている機器設備は、当会社の精密点検・設備補修基準に基づき点検・補修工事を行い、効率的で緻密な管理を行いました。

また、機器・設備の状態を把握し施設台帳システムの機能を充実させ、健全度診断を開始しました。

カ 危機管理体制の充実

事故や災害発生時の様々なリスクを想定し、被害を最小にして処理が継続できる体制の充実に努めるとともに、「神奈川県下水道公社業務継続計画（BCP）」を策定しました。

キ 環境対策

焼却炉排ガス等測定調査を実施するとともに、処理場周辺への臭気の影響及び放流水質の安全性を調査し環境保護に努めました。

（ア）焼却炉排ガス等測定調査

大気汚染防止法に基づき調査を行い、法令を遵守していることを確認しました。

（イ）敷地境界線等臭気測定調査

処理場周辺の臭気調査を行い、施設の健全なる管理に努めました。

< 敷地境界等臭気調査結果 >

流域	下水処理場 (管理センター)	調査地点数	臭気指数 (最小～最大)	悪臭防止法 規制基準値
相模川	四之宮	7 地点	10 未満～22	15
	柳 島	4 地点	10 未満	15
酒匂川	酒 匂	4 地点	10 未満	15
	扇 町	4 地点	10 未満	15

(注)・臭気指数の「10 未満」は定量下限値未満を表す。

・四之宮管理センターにおける臭気指数の基準超過については、速やかに原因究明と対応を行い基準値内に改善しました。

(ウ) クリプトスポリジウム測定調査

人体に影響を及ぼす恐れのあるクリプトスポリジウムについて、流入水及び放流水を調査した結果、含まれていないことが確認されました。

ク 普及啓発

下水道の大切さや必要性を理解していただくとともに、親しまれる下水道となるよう、次の事業を実施しました。

(ア) 施設見学

処理場施設の案内とともに、当公社が作成したパワーポイントや下水道 PR 用 DVD などを活用して神奈川県内の流域下水道の現況や下水道の役割などを説明しました。

<処理場施設見学者内訳>

(人)

流域	下水処理場 (管理センター)	行政 機関	学生		一般 県民	団体	計
			小学生	その他			
相模川	四之宮	161 (53)	57 (270)	64 (37)	26 (29)	72 (76)	380 (465)
	柳島	55 (77)	870 (750)	226 (201)	50 (44)	43 (115)	1,244 (1,187)
酒匂川	酒匂	48 (35)	186 (365)	13 (50)	20 (48)	8 (7)	275 (505)
	扇町	111 (4)	79 (83)	67 (22)	0 (11)	0 (8)	257 (128)
合計		375 (169)	1,192 (1,468)	370 (310)	96 (132)	123 (206)	2,156 (2,285)

(注) () は、前年度の見学者数

(イ) 「下水道ふれあいまつり」の開催

処理場内の上部利用施設を活用して、地元自治会や事業者等と協働し、地元住民の演奏・踊り、ゲーム・模擬店、下水道学習室や処理場施設見学などを行いました。

また、開催日は、ハロウィンと重なったため演出を工夫して来場者に楽しんでいただきました。

<下水道ふれあいまつり開催結果>

開催年月日	平成 27 年 10 月 31 日 (土)	
主催・共催	主催 神奈川県、下水道公社 共催 相模川及び酒匂川流域関連市町	
開催場所 ・来場者数	相模川流域 四之宮管理センター (四之宮ふれあい広場)	1,105 人 (柳島 : 1,422 人)
	酒匂川流域 扇町管理センター (扇町しらさぎ広場)	1,063 人 (酒匂 : 1,081 人)
計		2,168 人 (2,503 人)

(注) () は、前年度の来場者数

(ウ) パンフレット等の配布 [県民向け]

下水道のしくみや情報を分かりやすくまとめたパンフレットを配布しました。

(エ) ホームページ

下水道の仕組み・維持管理情報など公社業務内容の情報のほか、広場の施設案内、イベント開催情報及び実施結果など、適時情報を更新しホームページの工夫や内容の充実を図りました。

<主なメニューの内容>

- ・下水道の維持管理 (処理場の運転管理、下水道管渠の維持管理、水質分析結果 等)
- ・下水道のしくみ (下水道の役割・しくみ、下水道使用上のお願い、下水道 Q&A 等)
- ・イベント (下水道ふれあいまつり、下水道作品コンクール、下水道教室 等)
- ・お知らせ (広場の紹介、下水処理場の紹介、下水処理場施設見学の申込 等)
- ・公社情報 (公社の情報提供資料)
- ・入札情報 (入札予定、入札公告、入札結果、入札要領等、積算資料等、様式 等)

ケ 上部利用施設利用状況

各処理場の水処理施設上部に設置されている広場の利用状況は次のとおりでした。

＜上部利用施設利用状況＞ (人)

流域	下水処理場 (管理センター)	施設名	利用者数	備考
相模川	四之宮	四之宮ふれあい広場	61,067 (56,849)	多目的広場、テニスコート (6面)、フットサルコート (1面) ほか
	柳島	柳島しおさい広場	60,069 (64,955)	多目的広場、テニスコート (4面)、少年サッカーコート (1面)、親水池 ほか
酒匂川	酒匂	酒匂きらり広場	19,524 (19,199)	多目的広場、遊び広場、 お花見広場、噴水池 ほか
	扇町	扇町しらさぎ広場	44,183 (39,232)	芝生広場、ちびっこ広場、 遊具広場、軽運動広場、 噴水池 ほか
計			184,843 (180,235)	

(注) () は、前年度の利用者数

コ 水質規制支援業務

公社の技術・ノウハウを活かし、流域関連市町が行う特定事業場等の監視・指導業務を支援しました。

(ア) 研修会の開催

流域関連市町や事業場の担当者を対象に、知識・技術の向上等を目的とした、次の研修会を実施しました。

a 水質規制担当者特別研修会

＜水質規制担当者特別研修会実施状況＞

開催日	平成27年11月26日(木)
開催場所	四之宮管理センター
対象者	県及び流域関連市町の水質規制担当職員
受講者数	25名
内容	(1) 下水道法に基づく事業場立入検査について (2) pHに関する基礎講座(講義及び実習)

b 事業場排水担当者研修会

<事業場排水担当者研修会実施状況>

開催日	平成27年10月19日(月)
開催場所	扇町管理センター
対象者	酒匂川流域の事業場排水処理担当者
受講者数	39名
内容	(1) 下水処理場の処理について (2) 最近の下水道法の改正等について (3) 特定事業場の指導事例について (4) 下水処理の実際(実地研修)

(イ) 水質規制技術支援業務(アシスト下水道)

流域関連市町が行う施設立入検査への技術支援や水質異常時の原因究明調査など、技術支援を行いました。

<技術支援業務実施状況>

流域名	水質分析等	立入同行	相談・提案等	施設検査	合計
相模川	1	1	12	7	21
酒匂川	13	0	10	5	28
合計	14	1	22	12	49

(ウ) パンフレットの作成及び配布〔事業者向け〕

公共下水道を使用する事業者向けに、水質基準や届出等をわかりやすく説明したパンフレットを作成し、流域関連市町に配布しました。

(2) 下水道の水質分析等受託事業

相模川及び酒匂川流域に関連する市町から特定事業場の下水の水質分析を受託しました。

<特定事業場等水質調査業務受託概要>

区分 流域	受託市町数			調査箇所数			水質分析数		
	実績 A	前年 B	差異 A-B	実績 A	前年 B	差異 A-B	実績 A	前年 B	差異 A-B
相模川流域 関連市町	8	9	△1	129	137	△8	8,432	9,949	△1,517
酒匂川流域 関連市町	6	6	0	40	40	0	3,390	3,657	△267
計	14	15	△1	169	177	△8	11,822	13,606	△1,784

3 自主事業

当社は、下水道事業に対する理解と関心を深めていただくとともに、下水道関係者の知識や技術力の向上を目的に下水道知識の普及・啓発活動及び下水道の研修を行い、また、汚水・汚泥の処理方法についての調査研究により維持管理技術の向上と運営の効率化を図るため、次の事業を行いました。

(1) 下水道知識普及啓発事業

ア 下水道作品コンクールの実施

将来を担う子供達に下水道に対する関心を深めることを目的として、流域関連 21 市町の小学校 4 年生を対象として、作文、ポスター、書道の作品を募集するコンクールを実施しました。

応募作品は、第三者機関による公正な審査を経て優秀作品を選出し、入賞者には表彰式を開催（平成 28 年 2 月 7 日（日）小田原市生涯学習センターけやき）して表彰しました。

<作品応募・入賞数>

区 分	作文	ポスター	書道	計	備 考
応募数	97 (111)	781 (932)	3,665 (4,002)	4,543 (5,045)	参加学校数：175 (181) 参加市町数：21 (21)
入賞数	10 (10)	20 (20)	40 (40)	70 (70)	

(注) () は、前年度の実績数

イ 下水道担当職員研修会の実施

県及び市町村の下水道事業を所管する担当職員を対象に、下水道に関する幅広い知識の修得を目的として、次の研修会を実施しました。

<下水道担当職員研修会実施状況>

研 修 会 コース名	開催年月日 (開催場所)	対象者 (受講者数)	研修概要
一 般	平成 27 年 5 月 26 日 (酒匂管理センター)	主に下水道担当 として経験 5 年 未満の職員 (65 人)	<ul style="list-style-type: none"> ・下水道法と関連法規の受講 ・下水処理場の仕組みと水質管理の受講・体験 ・下水処理場の見学
専門技術	平成 27 年 11 月 30 日 ①品川シーズンテラス熱供給 設備 ②千住関屋ポンプ所建設現場	主に下水道担当 として経験 5 年 以上の職員 (29 人)	<ul style="list-style-type: none"> ・品川シーズンテラス内の下水熱を利用した省エネ空調設備の視察 ・内水氾濫を防ぐため雨水を一時的に貯留する巨大水槽の建設現場の視察
管 理 者	平成 27 年 7 月 27 日 (四之宮管理センター)	主に幹部職員 (45 人)	<ul style="list-style-type: none"> ・釜石の現場から下水道の災害対応を考える ・調査研究発表

ウ 下水道教室の実施

(ア) 下水道出張教室

流域関連市町の小学校4年生を対象として、公社職員が小学校へ出向き、授業の中で下水道の果たす役割や仕組みなどを説明するとともに、顕微鏡で汚れた水をきれいにする微生物の観察を実施しました。

<下水道出張教室実施結果>

学校数	クラス数	人数
21校 (21校)	47クラス (51クラス)	1,376人 (1,526人)

(注) () は、前年度の実績数

(イ) 夏休み下水道教室

流域関連市町在住の方を対象として、下水道の果たす役割や仕組みなどの説明、顕微鏡で汚れた水をきれいにする微生物の観察、水の汚れ具合を簡単に見分ける簡易的な水質実験及び下水処理場の見学などを実施しました。

<夏休み下水道教室実施結果>

流域	開催場所 (管理センター)	実施日	参加者数
相模川	四之宮	平成27年8月1日(土)	30人 (24人)
	柳島	平成27年8月5日(水)	37人 (23人)
酒匂川	扇町	平成27年8月9日(日)	37人 (酒匂:63人)
計			104人 (110人)

(注) () は、前年度の実績数

(ウ) 「下水道サポーター」講座～小学校教員向け下水道教室～

平成27年度から新たな取組みとして、小学校の教員の方々を対象に下水道教室を開催し、授業の中で活用できるよう分かりやすい情報や資料を提供しました。

<「下水道サポーター」講座実施結果>

開催場所 (管理センター)	実施日	参加者数
四之宮	平成27年8月18日(火)	10人

エ 市町主催の環境イベントへの参加

流域関連市町が主催する環境等に関するイベントに当公社が参加し、来場者に下水道の果たす役割や下水道の仕組みなどを説明するとともに、顕微鏡で汚れた水をきれいにする微生物を観察していただき、環境に対して下水道が果たす役割などについてPRしました。

<市町環境イベント参加結果>

主催	イベント名	開催日	公社ブース 来場者数
伊勢原市	いせはら環境展	5月9日	264人
	いせはらストップ温暖化展	11月21日	315人
藤沢市	ふじさわ下水道フェア	6月6日	195人
相模原市	さがみはら環境まつり	6月21日	323人
南足柄市	環境フェア	6月27日 (6/24~27)	119人
茅ヶ崎市	ちがさき環境フェア	9月20日	255人
中井町	美・緑なかいフェスティバル	10月18日	461人
座間市	座間市民ふるさとまつり	11月1日	463人
秦野市	秦野市市民の日	11月3日	378人
大井町	大井町環境展	11月8日	241人
寒川町	寒川町産業まつり	11月22日	565人
愛川町	環境フェスタ	11月22日	110人
合計 (7市4町)			3,689人

(注) 前年度は、5市4町で実施 合計3,372人

(2) 汚水・汚泥処理技術調査研究事業

下水処理場施設の維持管理を行う上で発生する様々な技術的課題事例を捉え、下水道維持管理コストを縮減するノウハウや施設の改善策などに資するテーマについて調査研究を行いました。

研究成果については、調査研究報告書を作成し、様々な場で発表しました。

ア 調査研究実施概要

平成 27 年度に行った調査研究のうち、次の 3 項目について研究報告をまとめました。

(ア) 活性炭交換時期の適正化について

(イ) 汚泥処理施設へのポリ硫酸第二鉄注入による硫化水素発生抑制効果について

(ウ) 水処理施設における汚泥引抜ポンプの振動対策について

<調査研究結果の概要>

(ア) 活性炭交換時期の適正化について

実施所属	目的	結果
水質課	<p>下水処理場の脱臭設備に用いる活性炭は、使用開始後、時間の経過とともに吸着能力が低下するため、適正な交換時期の把握に努め、経費縮減に取り組んでいます。</p> <p>これまで、簡易な臭気物質濃度測定結果と法に基づく臭気指数測定結果に基づいて交換時期の判定を行っていましたが、両者の結果にずれが生じていることが課題となっていました。</p> <p>そこで、活性炭の適正な交換時期の検討を行いました。</p>	<p>交換時期について、法に基づく測定の方が長い場合や簡易な測定の方が長い場合があるなど差が生じていること、また、臭気物質濃度測定に用いている検知管では測定限界があることから、法に基づく臭気指数測定結果に統一しました。</p> <p>判定に基づく結果、交換時期は、四之宮管理センターの高段沈砂池と東豊田ポンプ場の脱臭設備において延長が可能、一方、酒匂管理センターの川匂ポンプ場の脱臭設備においては短縮が必要であることが分かりました。</p> <p>なお、経費については、従来と比べて増減を合わせ年間で約 50 万円の縮額が見込まれます。</p>

(イ) 汚泥処理施設へのポリ硫酸第二鉄注入による硫化水素発生抑制効果について

実施所属	目的	結果
四之宮管理センター	<p>四之宮管理センターでは、平成24年度に硫化水素が原因と思われる低段沈砂池流入主ゲートの弁棒腐食が確認されました。</p> <p>そこで、硫化水素の発生を抑えるために、汚泥処理施設にポリ硫酸第二鉄の注入設備を設置しましたので、その効果について、注入量や注入方法の調査をしました。</p>	<p>ポリ硫酸第二鉄の注入効果は、注入量や季節により変動があることが分かりました。</p> <p>今後は、硫化水素の発生を抑えるため、季節や施設別にポリ硫酸第二鉄の注入量及び注入方法の継続的な検討が必要であることが分かりました。</p>

(ウ) 水処理施設における汚泥引抜ポンプの振動対策について

実施所属	目的	結果
柳島管理センター	<p>柳島管理センターの水処理第8,9系最終沈殿池に設置されている余剰汚泥ポンプ及び余剰汚泥配管(8,9系共用)において、8系ポンプ稼動時に停止している9系ポンプ及び配管の異常振動(太鼓を叩く様な連続音と振動)が発生していました。</p> <p>この異常振動は、配管の漏水や機器の破損等に繋がる恐れがあるため、原因を調査して対策を実施しました。</p>	<p>調査の結果、逆止弁による異常振動であったため、8,9系余剰汚泥ポンプの逆止弁を他のタイプに交換し、異常振動を解消しました。</p> <p>なお、他の系列に設置されている初沈汚泥ポンプ及び余剰汚泥ポンプについても振動の発生状況の調査を行い、7系余剰汚泥ポンプも同様に対策を実施しました。</p>

イ 研究発表

(ア) 研究発表

平成 27 年度に行った調査研究発表は、次のとおりです。

<発表会：第 52 回下水道研究発表会>

主 催	公益社団法人日本下水道協会
実 施 日	平成 27 年 7 月 30 日
開 催 場 所	東京ビッグサイト 会議棟 (東京都江東区)
発表テーマ	汚泥処理返流水から発生する硫化水素濃度の挙動と施設への影響について

<発表会：第 18 回県土整備技術発表会>

主 催	神奈川県県土整備局
実 施 日	平成 28 年 1 月 8 日
開 催 場 所	横浜市開港記念会館 講堂 (横浜市中区)
発表テーマ	1,4-ジオキサンの事業場排出実態調査について

(イ) 研究報告書の作成・配布

調査研究報告書を関係機関に配布するとともに公社内情報提供コーナーに備え置き、また、公社ホームページにも掲載し、一般県民に情報提供しました。

<調査研究報告書>

名 称	調査研究報告書 (第 33 号)
作成部数	110
主な配布先	県、流域関連市町、全国下水道公社
掲載内容	①1,4-ジオキサンの事業場排出実態調査について ②活性炭吸着塔への腐植質脱臭剤導入による脱臭剤交換費用の削減について ③寿町終末処理場の流域下水道編入に係る維持管理対応について (寿町終末処理場汚泥圧送管撤去に伴う影響検証実験)

<管理部門>

1 職員の状況

(平成 28 年 3 月 31 日現在)

組 織	長の氏名	構 成 職 員 数					
		事務	土木	機械	電気	化学	計
総 務 部 長	田代秀行					1	1
業 務 部 長	海野 淳			1			1
業 務 部 次 長	笠原俊男		1				1
総 務 課 長	(田代秀行)	6					6
企 画 課 長	小柴義隆	2	1	1			4
業 務 課 長	(海野 淳)		1	1	1	1	4
設 備 担 当 課 長	川端国男			1			1
水 質 課 長	川地知代子					7	7
四之宮管理センター所長	川島由美子			3	3	4	10
柳島管理センター所長	西村佳裕		1	4	4	3	12
酒匂管理センター所長	川原俊彦		1	1	1	3	6
酒匂管理センター 扇町駐在事務所長	渡辺俊一			1	1	2	4
合 計		8	5	13	10	21	57

(注) 構成職員には非常勤職員を除く。

2 役員及び評議員の状況

ア 役員数

(平成 28 年 3 月 31 日現在)

役 職 名	常 勤	非常勤	計
理 事 長	1	—	1
常 務 理 事	2	—	2
理 事	—	6	6
監 事	—	2	2
計	3	8	11

イ 評議員数

(平成 28 年 3 月 31 日現在)

役 職 名	常 勤	非常勤	計
評 議 員	—	9	9

ウ 役員一覧表

(平成 28 年 3 月 31 日現在)

役 職 名	氏 名	常勤・非常勤の別	備 考
理 事 長	藤 井 良 一	常 勤	
常 務 理 事	若 山 廣 文	〃	
〃	木 下 幸 夫	〃	
理 事	星 野 一 郎	非 常 勤	厚木市 河川みどり部長
〃	田 原 克 巳	〃	座間市 上下水道部長
〃	近 藤 充 志	〃	南足柄市 都市部長
〃	二 挺 木 敏 行	〃	大磯町 都市建設部長
〃	成 川 一	〃	二宮町 都市経済部長
〃	湯 川 浩 一	〃	山北町 上下水道課長
監 事	福 井 哲 也	〃	秦野市 下水道部下水道総務課長
〃	猪 鼻 久 義	〃	公 認 会 計 士

エ 評議員一覧表

(平成 28 年 3 月 31 日現在)

役 職 名	氏 名	常勤・非常勤の別	備 考
評 議 員	齊 藤 進	非 常 勤	産業能率大学 情報マネジメント学部教授
〃	伊 與 亨	〃	北里大学 医療衛生学部講師、 博士、技術士(衛生工学部門)
〃	岩 本 邦 夫	〃	相模原市 都市建設局 土木部参事
〃	石 田 晃 一	〃	平塚市 土木部長
〃	府 川 元 久	〃	小田原市 下水道部長
〃	塩 崎 威	〃	茅ヶ崎市 下水道河川部長
〃	西 海 昌 樹	〃	神奈川県 湘南地域県政総合 センター副所長(兼)総務部長
〃	高 橋 克 幸	〃	神奈川県 県西地域県政総合 センター副所長(兼)総務部長
〃	鈴 木 勲 生	〃	神奈川県 県土整備局 河川下水道部 下水道課長

3 理事会開催状況

<第1回理事会>

- 日 時 : 平成 27 年 6 月 11 日 (木)
場 所 : 公益財団法人神奈川県下水道公社 (平塚市)
出席者数 : 理事 8 人 監事 2 人
議 事 : (第 1 号議案) 平成 26 年度事業報告書及び決算報告書について
(第 2 号議案) 評議員会の招集について
報告事項 : (1)平成 26 年度第 3 回理事会以降の理事長及び常務理事の職務執行
状況報告
(2)第 5 期経営改善計画 平成 26 年度実績状況報告書

<第2回理事会>

- 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 96 条、第 197 条及び定款第 35 条第 3 項による理事会決議の省略

理事会の決議の内容

- 「公益財団法人神奈川県下水道公社特定個人情報取扱規程」を制定する件
理事会の決議があったものとみなされた日
平成 27 年 10 月 19 日 (月)

<第3回理事会>

- 日 時 : 平成 28 年 3 月 25 日 (金)
場 所 : 公益財団法人神奈川県下水道公社 (平塚市)
出席者数 : 理事 8 人 監事 2 人
議 事 : (第 1 号議案) 平成 28 年度事業計画書
(第 2 号議案) 平成 28 年度収支予算書
(第 3 号議案) 評議員会の決議の省略の件
報告事項 : (1)平成 27 年度第 1 回理事会以降の理事長及び常務理事の職務執行
状況報告
(2)専決処分事項の報告 (平成 27 年度収支補正予算書)
(3)規程の一部改正 (予定)

4 評議員会開催状況

< 第 1 回評議員会 >

- 日 時 : 平成 27 年 6 月 26 日 (金)
場 所 : 公益財団法人神奈川県下水道公社 (平塚市)
出席者数 : 評議員 6 人 理事 3 人 監事 1 人
議 事 : (第 1 号議案) 平成 26 年度計算書類について
(第 2 号議案) 任期満了に伴う評議員の選任について
(第 3 号議案) 理事の選任について
報告事項 : ・平成 26 年度事業報告書
・平成 26 年度収支補正予算書
・平成 27 年度事業計画書及び収支予算書
・第 5 期経営改善計画 平成 26 年度実績状況報告書

5 情報公開

当公社は、四之宮管理センターに「情報提供コーナー」を設置し、以下に記載する各種公社情報について県民の自由閲覧に供しています。

< 各種の公社情報 (主な提供資料) >

- ・ 定款
- ・ 役員及び評議員名簿
- ・ 役員及び職員名簿
- ・ 事業報告書
- ・ 事業計画及び収支予算書
- ・ 貸借対照表
- ・ 正味財産増減計算書
- ・ 財産目録
- ・ 収支計算書
- ・ 監査報告書
- ・ 役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規程
- ・ 経営改善計画
- ・ 各種パンフレット類
- ・ その他下水道に関する情報誌 等

事業報告の附属明細書

公益財団法人神奈川県下水道公社定款第 10 条第 1 項第 2 号に規定する事業報告の内容を補足する重要事項を記載すべき「事業報告の附属明細書」は、本事業報告に事業内容を細部にわたり記載しているため作成しておりません。